

消防団と議員とのカフェ・ド・ギカイで出された意見

■団員不足

第6分団長 真壁

団に加入する人が少ない。団員確保に議員も協力して欲しい。

赤堀の火災の時は、隣の家を類焼してしまった。もっと団員がいたら、被害を少なくできたのではないかと思う。

第6分団は、以前は22人いたのが、現在は14人である。

消防車は、3人いないと出動させられない。

第1分団長 永井

以前は20人いたが、現在は10人である。

昔から消防団の悪いイメージがあり、団員確保に影響があると思う。議員にもイメージを良くする協力をして欲しい。

第2分団長 棚瀬

報酬が欲しくて入る人はほとんどいない。地域に貢献したい気持ちで入団する。仲間ができることがメリットであることを知らせたい。

齋藤武男

昔は集まれば飲んでるイメージがあったが、今は変わっている。

森弘子

消防団だけではなく、自治会の加入率も低い。

■詰所

第2分団長 棚瀬

耐震性能について心配。台風時など長時間待機している時は特に心配。待機する施設自体が災害に対応していない。

第7分団長 大橋

詰所にトイレがない。自宅に帰ったり、近くの公共施設のトイレを使ったりしている。

第5分団長 星

芳賀町や埼玉県秩父の詰所はきれいですばらしかった。高根沢町の詰所は、汚くてみすばらしいので、何とかして欲しい。

■雨水対策

第5分団長 星

ゲリラ豪雨で冠水する場所が変わってきている。昨年の豪雨時に、とりせんの裏の道路、宝積寺駅東の公園、クスリのアオキの横の道路などが冠水した。どこが冠水しやすいか、調べる必要があると思う。

第1分団長 永井

昨年の豪雨時、野元川が氾濫しそうになった。芳賀町の水門を開けてもらえれば防げるものもある。下流の町とも連携して、氾濫を防ぐ必要があると思う。

■活動の周知

第5分団長 星

娘の友達の親に、「消防団で何をしているの」と質問されたことがあった。地域のために活動していることが十分に伝わっていない。広報活動により、町民に消防団のことを知ってもらいたい。

第2分団長 棚瀬

「消防団は何をやっているのか」と聞かれるので、もっと町の広報紙などに取り上げてもらいたい。

第5分団長 星

6月に町民広場で行う操法大会は、町民に知ってもらうためにも、町おこしのひとつとしてお祭りの的に行うのもおもしろいのではないか。

■地域との交流

第6分団長 真壁

地域の自治会長さんなどと、もっと連携を取りたい。情報交換を行ってれば、災害時に対応できることも増えるのではないか。

自治会長には防災無線の戸別受信機が配られているが、開けていない人もいる。聞こえるようにしておいて欲しい。

■地域からの協力金

齋藤武男

協力金が廃止になった自治会もあるが、団の活動に支障は出ているか。

第6分団長 真壁

協力金は、出動時の飲み物や菓子に使っている。待機時に節約すれば、何とかなる。

年に一度は、泊りで団員との交流を図りたい。

第3分団長 齋藤

団によって格差があるのはおかしい。

森弘子

研修は町が予算を組んで行くべき。

■操法大会

齋藤武男

操法大会に向けた訓練は必要なのか。

第7分団長 大橋

早起きして訓練するのは本当に大変。仕事に支障が出ては意味がない。

ポンプ操法の練習のやり方は、今までと同じでいいのか考えた方がいい。

練習で団に溶け込めたという面はある。